

# Nara Women's University

資料2:研究開発:基礎研究2事物認識の質をくみとるための研究:小学校教師による5歳児の認識調査とそれもとにした継続期における学習の捉えなおし

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 奈良女子大学附属幼稚園 幼年教育研究会 公開日: 2010-07-06 キーワード (Ja): 5歳児, 認識 キーワード (En): 作成者: 廣岡, 正昭, 大野, 智子, 谷岡, 義高, 杉澤, 学, 日和佐, 尚, 梶田, 萬理子, 阪本, 一英, 山上, 眞佐枝, 西條, 友香 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="http://hdl.handle.net/10935/1665">http://hdl.handle.net/10935/1665</a>

研究開発 基礎研究② 事物認識の質をくみとるための研究  
 小学校教師による 5 歳児の認識調査と  
 それをもとにした接続期における学習の捉えなおし

1. 小学校教師による 5 歳児の認識調査

本基礎研究は、小学校教師が 5 歳児の事物認識の様相についての理解を深めるために、小学校教師が実際に 5 歳児に学習を実施した。

方法としては、「社会的生活」「言語的生活」「自然的生活」「科学的生活」「数理的生活」「音楽的生活」「体育的生活」「造形的生活」の分野について、専門とする小学校教師が、専門的視点から 5 歳児の学習を実施し、考察を行った。その内容は以下の通りである。

- ① 社会的生活…しょうがっこうたんけん
- ② 言語的生活…ことばさがし
- ③ 自然的生活…さんぼでみつけたよ
- ④ 科学的生活…田んぼの虫しょうかい
- ⑤ 数理的生活…おはじき「じゃんけんゲーム」
- ⑥ 音楽的生活…音楽を身体で感じよう
- ⑦ 体育的生活…なわとびジャンケン（今後実施予定）
- ⑧ 造形的生活…シャボン玉にのって（今後実施予定）

以下に、それぞれの活動の概要と考察の概略を抜粋しておく。

①社会的生活「しょうがっこうたんけん」【小学 2 年生との交流活動】

【実施日時・場所】平成 19 年 7 月 4 日（水）10：00～11：10 小学校にて

【内容】

- ・ 5 歳児と 2 年生児童がペアとなり、小学校を「探検」する。
- ・ 探検先で見つけたものを記録し、「不思議やはてな」を見つける。  
探検先：図書室・体育館・家庭科室・保健室・造形室・理科室・畑・飼育小屋・音楽室
- ・ 「探検」後、見つけてきたものや「はてな・不思議」を発表しあい交流する。

【考察】 小学校での探検的な学習を考えれば、探検の中での着眼や疑問をもとに、継続して観察したり追究したりする学習をイメージしがちである。しかし、このような学びの姿は小学校に入学して日々の学習生活の中で徐々に培っていくべきものであると感じられた。一方で、幼稚園の子ども達は、幼稚園にない小学校の環境を感じ取りながら「見つけたもの」として多くのものに目を向け、みんなの前で言葉にして発表していた。これらの様子からは、幼稚園の子ども達にとっても「学校探検」のような活動で、いろいろなものに着目し報告し合うことが楽しい活動であったことがうかがわれる。

5歳児にとっても、学校探検的な活動を通じて、見つけたものを言葉にして報告しあうという活動は、知的好奇心をかきたて、日々の遊びの中に追究の姿を引き出す可能性のある活動なのではないかと感じた。 (廣岡)

## ②言語的生活「ことばさがし」

【実施日時・場所】平成19年7月11日(水)10:00~11:10 小学校にて

### 【内容】

- ・小学校の教室に集合し、次の順に「ことばさがし」の学習をする。
  - 「あ」がつく言葉を見つける。 ○見つけた言葉を仲間わけする。
  - 「赤いもの」を見つけ仲間わけをする。

【考察】 幼一小的連続したカリキュラムを考えると、新たな可能性が見えてくる。幼稚園児の普段の遊びのなかに、意図的に「言語」にかかわる環境を整えていくことで、従来小学校一年生の国語の学習として取り組まなければならなかった内容を省略できるのではないだろうか。そして、その分一年生を教室に閉じ込めて学ばせるのではない、遊びの中から学びを見つけるという活動を大切にしたいカリキュラムの実現の可能性が見えてきたように感じる。 (大野)

## ③自然的生活「さんぽでみつけたよ」【園児単独の活動と小学4年生との交流活動】

### 【実施日時・場所】

平成19年10月22日(月) 幼稚園内のさんぽ(担当の小学校教師と)

29日(月) 園近くにある地藏山(どんぐり山)へさんぽ(担当の小学校教師と)

11月6日(火) 小学4年生と大淵池公園をさんぽ

10日(土) 10:10~10:50

小学4年生とさんぽで見つけてきたものの絵を描いたり作品を作ったりし、発表し合う。

### 【内容】

- ・小学校教師が5歳児に幼稚園内や近くの地藏山をさんぽし、秋の自然や季節の移り変わりへの関心が高まるように働きかける。(10/22・10/29)
- ・小学4年生と一緒に自然あふれる公園にさんぽにでかけ、4年生と5歳児の交流を通して互いの学びの姿を感じ取らせるようにする。(11/6)
- ・小学4年生と一緒に、さんぽで見つけたものを絵に描いたり、自然物を使って製作をしたりする。
- ・できあがった作品を発表し合い、4年生と5歳児双方が「おたずね」を通して交流する。(11/10)

【考察】 4年生は道を横断するたびに手をつなぎかえて、5歳児を大切にかばうように歩いていた。日頃、校舎内の廊下を走り回っている4年生とは、一味違う姿を見た。柿、キノコ、どんぐり、紅葉した落ち葉など、子どもたちは秋色に染められながら、楽しいひと時を過ごしていた。5歳児だけ、4年生だけの公園さんぽではない、異年齢一緒の活動のよさが、実感された半日となった。

大淵池公園さんぽで拾ったどんぐりや落ち葉で、5歳児は製作をし、絵を描いた。4年生は、理科

の記録として、秋の自然の観察記録を作った。どちらも、年齢にふさわしい、素晴らしい作品になった。それらを持ち寄り、発表会をした。互いにそれぞれの内容を聞き合い、「おたずね」をし合うことができた。年齢差は優しさのつながりをつくり、秋の公園はそれぞれの年齢に合った素材を提供してくれることを知った。子どもたちは、小さな互いの手のぬくもりの中に、多くの学ぶべきことを感じることができたと思う。私たち幼稚園と小学校の教師は、秋の公園の中で、新しいつながりの、学びのあり方を教えられたように感じた。(谷岡)

#### ④科学的な生活「田んぼの虫しょうかい」【小学3年生との交流活動】

【実施日時・場所】平成19年11月21日(水)10:00~11:10 幼稚園にて

##### 【内容】

- ・5歳児が園内で稲の栽培をしている場所で、小学3年生児童5名が自ら調べまとめた、田んぼに集まる虫の様子を発表し、交流し合う。

##### 【考察】

- ・普段のさんぽや稲のお世話のような活動の中で、子どもたちの興味だけにまかせるのではなく、子どもたちの集団に対して自然への興味をかき立てたり虫への関心を高めるような働きかけをしていることが独創的で「ねばり強い」思考能力の育成に大切である。
- ・小学生によるプレゼンテーションの際に、様々な虫への高い関心を示す子どもも多くいた。しかし、周りの集中しきれない5歳児に影響されてしまっていた部分も感じられる。幼から小へのスムーズな接続を考えれば、集団で話を聞くことなどの態度も育てておく必要がある。
- ・子どもたちの〈モノ〉への関心をより高めるためには、5歳児であっても見つけた「モノ」について発表したり「おたずね」する活動が有効であると思われる。そのような活動を意図的に増やしていけば、子どもたちが5歳児なりの言葉のやりとりをさらに発展させるであろうし、そこから「モノ」への興味関心を高めていくことができると感じた。(杉澤)

#### ⑤数理的な生活 「おはじき『じゃんけんゲーム』」

【実施日時・場所】平成20年2月20日(水)10:00~11:10 幼稚園にて

##### 【内容】

- ・二人一組で20個のおはじきをじゃんけんで取り合いっこする。
- ・グーは1こ、チョキは2こ、パーは3こ、もらえる。
- ・いくつもらえたかを数える。

【考察】 5歳児は、幼稚園における総合的な生活の場で、遊びを通じて20までの数ならば意のままに扱っている。本実践では、楽しく遊びながら、何対何で勝ったという表現が自然な声になっていた。5歳児で充分、数詞を唱える、1対1対応、20までの数を把握する、ということが可能であった。遊びの中で身についたことが活用されていたのである。現在は6歳児から小学1年となり、数詞を唱える、数の1対1対応、数の概念などを学習するようになっているが、その適時性は5歳児後半においてすでに準備されていることが分かった。また、「もの」について考察するとき、5歳児では

具体物を目の前に置き、操作することが大切である。具体物を操作しながら、数量を的確に把握するようである。「何対何で勝った」という表現の基本は、物の数を数える活動から得られるものである。

(日和佐)

#### ⑥音楽的生活「音楽を身体で感じよう」

【実施日時・場所】平成20年9月16日(火) 11:00~11:40 小学校音楽室にて

##### 【内容】

- ・身体の動きの模倣
- ・音楽に合わせて拍を感じ取りながら身体を動かす
- ・ピアノに合わせて身体表現をする

【考察】 5歳児は、音楽に合わせて身体を動かすことが大好きで、無意識に身体が動き出すようであった。今回の取り組みでは、音楽遊びを通して、自然のうちに音楽のニュアンスや拍を感じ取ることができていた。音の高低の感受や呼応、音楽的概念の形成も、音楽遊びの中で身につけていく。このような場を整え、音楽体験をたくさんしていけば、小学校からの音楽へ楽しくスムーズに入っていると感じた。

(山上)

#### ⑦体育的生活「なわとびジャンケン」 実施予定

#### ⑧造形的生活「シャボン玉にのろう」 実施予定

##### 【総括】

これまで、幼稚園5歳児の事物認識の在り様について小学校教諭の視点から考察してきた。全体を通して言えるのは、社会的生活・言語的生活・自然的生活・科学的生活・数理的生活のそれぞれで、教師の意図をもった働きかけによって5歳児の「事物認識」を深めることが可能であろうということである。中でも一番象徴的であったのは「さんぼでみつけたよ」と「田んぼの虫のしょうかい」の取り組みである。同じような自然的科学的な生活を視点にした取り組みであったが、「田んぼの虫しょうかい」では5歳児のこだわりが希薄に感じられたのに対し、「さんぼでみつけたよ」では5歳児なりに十分にこだわりをもって活動できていたように感じられた。この違いは5歳児が活動する際の教師からの意図的な働きかけの有無によるものが大きいと考えられる。「さんぼでみつけたよ」では実際に活動する際、教師が具体的な視点を示すことで子どもたちの興味関心を引き出し、より遊びに熱中できるような働きかけていたのに対し、「田んぼの虫しょうかい」では、そのような働きかけがなかったのである。

このように論を進めると、幼稚園においても学び取る視点を定め、学習の成果があがるよう指導すべきだと捉えられるかもしれないが、そうではない。幼稚園の子どもたちの自然な遊びを大切にしながらも、その遊びにより熱中できるような環境をつくったり、働きかけをすることが大切だと考えているのである。同じように自由に遊ぶ子どもたちも、ちょっとした環境や教師の言葉かけによって、遊びへの視点や熱中度が変わってくるのではないだろうか。虫博士や運動名人など様々な博士や名人が生まれてくる幼稚園生活は、おそらくとても楽しい充実した園生活になるであろう。また、幼一小

の連続したカリキュラムを考えると、子どもたちがまったく自由に自分の遊びを選ぶだけでなく、意図的に同じ遊びをさせることも大切になってくる。幼稚園の中で、全員が同じ遊びに取り組み互いに交流しながら高めあう場面を設定することで、小学校低学年のカリキュラムをより自由に解放的にするゆとりも生まれてくるのではないかと考えている。(阪本)

## 2. 5歳児の認識調査をもとにした 接続期における学習の捉えなおし

上記の考察をふまえ、幼稚園・小学校の接続期の学習過程を考えたとき見えてきたのが、次のような視点である。

- ・ 5歳児の遊びの中でも「たんけん」的な要素を取り入れた環境を整えて遊ばせる。そして、見つけたものを言葉にして報告し合うなどの活動を取り入れ、知的好奇心をかきたてることによって、遊びの中に追究の姿を引き出していく。
- ・ 5歳児の各種の遊びの中で、教師が意図的に視点をもって対象にかかわらせたり、着目させたりするような、働きかけや言葉かけを行っていく。
- ・ 5歳児の生活場面の中に、一人ひとりの子どもが言葉を通して全体に報告できる場を設ける。そのことにより、言葉のやり取りや〈モノ〉への興味関心を高めていく。(言葉による報告が可能となる、話を聞く態度なども育てていく。)
- ・ 5歳児の遊びや生活の中に、子どもの学習の適時性も見極めながら、言語的生活や数理的生活に親しめるような環境を整える。そのことにより、現行では一年生の学習内容として、教室内で着席して行われている内容を既習事項と捉えることができる。そのゆとりを生かし、小学校入学当初の「学習」を、より多様な内容で捉えなおしていく。

このような視点をもとに、本研究では特に「入学当初」の学習の捉えなおしに取り組んでみた。

(阪本)

### ①算数 5月21日(水) 「なんばんめ」おにごっここの活動(数理的生活)

「なんばんめ」おにごっこ(6歳児:小学校にて)

- ・ タンバリンの音で、〇〇から何番目を教室で練習する。
- ・ 運動場で、4人組で遊ぶ。
- ・ その後、8人組で遊ぶ。

現在の教育課程では、6歳児つまり小学校1年生から算数の学習が始まることになっている。しかし、現在の子どもたちは、大方「数詞を唱える、1対1対応、20までの数を把握する」ということは、先に述べたように5歳児で把握することが可能である。初等教育を真剣に考えるならば、5歳児で指導した上で、6歳児で新たに学習した順序数などは、教室での学習だけでなく、例えば外で遊びを通じて定着・活用を目指した展開を期待したい。

初等教育が実現すれば、いわゆる「ゆとり」の時間が結果的にできて、学習の具体が活動となってますます充実すると予想する。それは、順序数の活用だけでない。もちろん教室できちんと学習



した上で、活用という観点で算数的活動を期待できるのであるが、時間数などを考えると、初等学校が確立した段階で確定できるものであろう。

6歳児で「なんばんめ」（順序数）を学習するが、現在の教育課程では「算数的活動」に充てる時間が充分ではない。初等教育学校では、5歳児で学習した内容があるので、その分、時間数にゆとりが出てくる。この時間を空間的にも時間的にも豊かに使うことによって、確かな力となる活動が期待できる。

つまり、学級での教室学習だけでなく、行動的・活動的な学習が6歳児の4月から5月にかけて、充分に行うことができるのである。 (日和佐)

## ②国語 5月23日（金） 紙芝居（言語的生活）

1. かみしばいを見る、聞く。
2. どんなことに驚いたか話す。
3. この話の続きを隣の子と会話する。
4. このかみしばいの感想や続き話のどちらかを選んで、ノートに書く。

幼稚園から入学してきた子どもたちが、教室の学習に抵抗をもたず、園の生活となじみのある活動を通して、国語学習を進められないかと考案してみた。

そこで、紙芝居を取り上げてみることにした。その内容を昔話にしてみた。幼児期からテレビや絵本、まんが昔話、読み聞かせ、DVDなどで、誰でも幾つかの昔話に触れてきているはずである。遠い昔から語り継がれてきた不思議な世界、心地よい世界に入り、楽しんでほしいと願う。「ちからたろう」では、この世にありもしないものが現れたり、起こったりすることの繰り返しが楽しめる。不思議な力を持ったちからたろうが旅をしながら次々と、相手を倒していくストーリーは、子どもたちを満足させるものと思われる。この話から、驚いたことなど感想が言えるように進めたい。また、続き話を思いつく子どもには、書かせてみたいと思う。 (相田)

## ③「たいざんぼくの木」について 4月～6月 （社会的・自然的・科学的・造形的生活）

### （1）学校たんけん（4月）

学校の周りをたんけんする。

池やウサギ小屋、給食室、チューリップやパンジーなどのきれいな花、たくさんの花が咲いていることに気付いた。チューリップやパンジーだけでなく、シロツメクサやハルジオン、タンポポなどの雑草に興味をもち、たくさんの草花を集めてきた。ノートに絵を描いたり、においをかいだりして触れ合った。

### （2）この葉っぱはなんの葉っぱかな（5月はじめ）

この？の葉っぱは何の葉っぱかを調べる。

落ちてた所に行く。下に落ちている葉っぱと周りの木を見比べる。？の葉っぱのついている木を

見つける。「たいさんぼく」という名札がかかっていた。

### (3) たいさんぼくの葉っぱで何ができるかな (5月おわり)

「ポスト」を教室につくって、休み時間などに葉っぱを集める。たいさんぼくの葉っぱで何ができるか、いろいろと試してみる。

- ・ブーメラン ・ふね ・かんむり ・お面 ・かたつむりや虫などの生き物
- ・手紙 (葉っぱに手紙を書く) ・ネックレス など

つくった物を試す。遊ぶ。「船が実際に浮かぶか。」「つくったブーメランは飛ぶか。」「手紙やネックレスをプレゼントする。」「かんむりをつけてお姫様をする。」

### (4) たいさんぼくの葉っぱにまぎれているこれは何だろう? (6月はじめ)

茶色いふにゃふにゃの物は何か。たいさんぼくの木に行った。少し枯れかけたたいさんぼくの花。茶色のふにゃふにゃが、花が枯れた物だと気付く。枯れる前のたいさんぼくの白い花の美しさ、大きさなどに驚く。(西條)

## 【総括】

### 「なんばんめ」おにごっこ

5歳児の認識調査では、子どもは幼稚園での生活の中で小学校入学当初の算数の学習内容も、遊びの中で自然に身につけていることが分かった。今回は、この入学当初の算数の学習を、教室の中での図や具体物を使って行う活動ではなく、直接体験を取り入れた活動をとおして行った。教室の中で行われる学習では、図や具体物を使いながら理解を深めていくのであるが、今回行われたような遊びや、直接体験的な活動を取り入れることで、子どもたちは「何番目」という内容を、体験を通してより自然に理解していくことができた。5歳児の段階で身につけている認識をはっきりさせながら、幼小の接続期の学習にゆとりを見つけ、このような、直接体験を大切にしていくことが、事物認識を育て独創的で「ねばり強い」思考能力を育成するために重要ではないだろうか。

### 紙芝居

「ことばさがし」の取り組みからは、5歳児が言葉に関心を持って連想したり仲間分けを楽しんだりできることが確認された。5歳児も多く体験しているであろう「紙芝居」の活動を通して、ただ「紙芝居」を楽しむだけでなく、感想を言ったり続きの物語を考えたりすることで、より自然に小学校への学習につなげていく方法を探った。幼稚園でも普段から行われているような活動に、自分の思いを話したり、友だちの話を聞くというような活動を加えることで、子どもの言語的生活を広げ、より小学校への学習へと近づけていくことが出来るのではないかと感じた。

### 「たいさんぼくの木」

幼稚園で行われている自由選択活動や探検的な活動の延長として、自然な形で小学校での学習が行われている。幼稚園での「遊び」から小学校での「学び」という視点で考えれば、小学校では子どもたちが見つけてきたものを教室に持ち帰り、話し合いが行われている。そこから学級全体で共通した「テーマ」がつけられ、そのテーマにそって子どもたちの活動が続いていく。探検的な活動や創作活動などをすすめるながら学級としての追究テーマを探り、事物への認識や「ねばり強い」思考能力を育



てようとしているのである。

このような学習は、本附属小学校で盛んに行われている学習活動である。幼稚園で行われている活動との連携をはかり、さらに小学校での「学習」という視点も加味した、「ねばり強い」思考能力を培うための学習形態なのではないかと考えている。 (阪本)

